

街歩きヒストリア



歌碑の傍にはボタンを押すと歌が流れる案内板も
河野宏志さん撮影

二葉あき子歌碑

二葉の里

②②

数々のヒット曲で昭和歌謡史を飾った歌手・二葉あき子（1915～2011年）。その芸名は、出身地の「二葉の里」と「安芸の国」に由来します。

原爆投下の際には、広島駅から芸備線に乗車して中山トンネルの中におり、間一髪で難を逃れました。

2015年にあき子生誕100年を記念して建てられた歌碑は、代表歌の一つ『夜のプラットフォーム』の歌詞を刻みます。戦争に出征する恋人との悲しい別れの場面からは「二度とこんな光景がないように」と歌い続けた彼女の平和への思いが響いてくるようです。

（文・片山典子さん）

中央公民館エリア（白島、基町、幟町）の街の魅力を歴史とともに紹介するコラム「街歩きヒストリア」を公募で集まった制作スタッフが編集します。



ステージに立つ晩年の二葉あき子氏（二葉あき子歌碑設立委員会提供）



HP（検索：広島市中央公民館）にバックナンバーを掲載しています。ぜひご覧ください。